

沖縄語津堅方言の記述

又吉 里美（岡山大学）

1. はじめに

本稿では、北琉球方言の一つである沖縄語津堅方言について報告する。構成は以下のとおりである。まず、津堅島の地理的位置と言語および言語継承の状況を述べる。津堅方言の実態及び特徴については音声と文法の両面からまとめる。津堅方言の音声については、モーラ表を示し、音声と語例を示す。次に、文法については、格およびとりたてについて記述する。格形式およびとりたての形式と各形式の機能や用法について例文を提示しながら記述する。

1.1 津堅島の地理的位置と言語

津堅島は、周囲約 8 km、面積約 1.8k m²の島で、北緯 26 度 15 分、東経 127 度 56 分にあり、沖縄本島中南部東海岸に面した与勝半島の南東約 5 kmに位置する。かつては、勝連町に属していたが、現在は平成 17 年 4 月 1 日に、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の 2 市 2 町が合併してできた「うるま市」の行政区の一つである。

琉球方言を北琉球方言と南琉球方言とに大きく分けて考えると、北琉球方言には、奄美諸島および沖縄本島及びその周辺の島々の方言が含まれ、南琉球方言には、宮古諸島および八重山諸島の方言が含まれる。したがって、津堅方言は北琉球方言としてまず位置づけられる。さらに、北琉球方言は、奄美徳之島諸方言、沖永良部与論沖繩北部諸方言、沖縄中南部諸方言に分けられる。沖縄本島に関して見てみると、太平洋側では金武町屋嘉、東シナ海側では恩納村恩納以北が沖永良部与論沖繩北部諸方言に区分され、それより南は沖縄中南部諸方言に区分される。地理的に見れば、先に述べたように、津堅島は太平洋側の勝連半島の南東に位置し、すなわち、金武町屋嘉以南に位置する。地理的位置から判断すれば、津堅方言は、沖縄琉南部諸方言に分類されると考えられる。しかし、これまでの諸研究により、P 音の残存状況や、格形式において、移動に関わる方向格と存在に関わる場所格の形式を別に持っていることや、沖縄本島中南部で盛んに用いられる具格の *saani* 形式は持たないことなどから、津堅方言は沖永良部与論沖繩北部諸方言の特徴を有していることが明らかにされており、言語的な位置づけとしては沖永良部与論沖繩北部諸方言に属すると結論づけられている。

津堅方言が、沖縄北部諸方言的な特徴を持っていることは特に格形式において顕著である。たとえば、移動に関わる方向格と存在に関わる場所格の形式を別に持っていることや、沖縄本島中南部で盛んに用いられる具格の *saani* 形式は持たないことなどが挙げられる。

1.2 津堅島の言語継承の状況

津堅島における言語継承の状況はおおむね以下の状況である。

1) 話者：60 代以上においては話す・聞くの運用能力がある人が多い。

60 代～30 代においては聞くことを中心として部分的に方言の使用がある。

デイケアサービスの施設で、若い人も部分的に使用している様子が見られる。

2) 資料：①琉球方言研究クラブ（1989）『琉球方言 17 号—津堅方言の音韻と語彙』琉球大学方言研究クラブ

②比嘉繁三郎（1990）『津堅島の記録』、沖縄自分史センター

①は、1982 年～1989 年にわたって調査が行われ、その調査をもとに音韻が整理されている。インフォーマントに明治生まれの方が多く含まれているので、伝統的な津堅方言の音声の記述になっていると考えられる。また、アクセント付きで多くの語が提示されている。

②は、津堅島出身の比嘉繁三郎氏（大正 4 年生）による津堅島の様々な記録である。津堅島の歴史、習慣、年中行事、風俗から産業、教育、戦争記録など、多岐にわたって記されており、資料性の高いものといえる。言語については、方言語彙のほか、俗諺なども収められている。もいくらか収められている。

2. 津堅方言の音声と語例

ここでは、津堅方言の音声について特徴的なことについて取り上げ、モーラ表を示す。また、音声と語例一覧を示す。

2.1 津堅方言の音声の概要

津堅方言の音声の特徴について、特に語頭の母音の発音の仕方、ラ行音とダ行音の混同、音韻変化の 3 つについて述べる。

まず、語頭の母音の発音の仕方については、母音の発音の直前に喉頭の緊張を伴う音と伴わない音とがある。すなわち、いったん声門を閉じたあと、急に開くことによって作られる声門閉鎖音 [ʔ] の有無である。「い」と「う」を例にとれば、声門閉鎖音を伴う音声「い^ʔ」(ʔi) と「う^ʔ」(ʔu) と、声門閉鎖音を伴わず、緩やかな声立てではじまる「い^ˊ」(ji) と「をう」(wu) との対立があることがよく知られている。

‘いん ʔin 〈犬〉 — い^ˊん jin 〈縁〉

‘うとう ʔutu 〈音〉 — をうとう wutu 〈夫〉

上記の例から分かるように、語頭の発音の違いによって意味が異なる。母音の他、半母音の [j] [w] を持つ語にも声門閉鎖音が見られる。また、声門閉鎖音は語中ではほとんど出現しないが、「うふ ‘いーび uhwu'iibi 〈親指〉」などの複合語に見られることがある。以上のことをまとめると、表 1 のようになる。

表 1 語頭・語中における声門閉鎖音の有無

語頭 声門閉鎖有り	‘あ ʔa	‘い ʔi	‘う ʔu	‘え ʔe	‘お ʔo	‘や ʔja	‘わ/うわ ʔwa
語頭 声門閉鎖無し	—	い ^ˊ ji	をう wu	いえ je	—	や ja	わ wa
語中	あ a	い i	う u	え e	お o	や ja	わ wa

ただし、「あ」と「お」に関しては語頭における声門閉鎖音の有無で語の意味が変わる

ものは見いだせていない。また、「え」についても、「え」から始まる語例が少なく、「‘え」と「いえ」の区別は曖昧である。

次にラ行音とダ行音の混同について述べる。津堅方言では「太陽」のことを「ていだ」[tida]とも「ていら」[tira]とも発音され、発音の区別が曖昧な場合がある。おおよその傾向としては、語頭および「ん」の後ではダ行音で、それ以外ではラ行音で発音されるようである。ただし、その傾向も緩やかなもので、特に、語頭ではラ行音もよく観察される。

最後に音韻変化について述べるが、具体的にはジャ行のザ行化を取り上げる。津堅方言においては「ザ・ズ・ゾ」の語例は希である。「ザ・ズ・ゾ」に対応する音声には「ジャ・ジュ・ジョ」が用いられている。このことから、古くは「ジャ・ジュ・ジョ」の音声であったと考えられる。しかし、共通語や周辺地域の方言の影響から、「ジャ・ジュ・ジョ」が「ザ・ズ・ゾ」と直音化した音で発音になることがしばしば見られる。下記の語例一覧では「ジャ・ジュ・ジョ」を津堅方言が持つ伝統的な音声としつつも、直音化した語例も記載しておく。

2.2 津堅方言のモーラ表

津堅方言モーラ表を表2に示す。

表2 津堅方言のモーラ表

あ	い	う	え	お				
a	i	u	e	o				
‘あ	‘い	‘う	‘え	‘お				
?a	?i	?u	?e	?o				
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ		ぴゃ	ぴゅ	ぴよ
pa	pi	pu	pe	po		pja	pju	pjo
ば	び	ぶ	べ	ぼ		びゃ	びゅ	びよ
ba	bi	bu	be	bo		bja	bju	bjo
た	てい	とう	て	と				
ta	ti	tu	te	to				
だ	でい	どう	で	ど				
da	di	du	de	do				

か	き	く	け	こ	くわ	きや	きゆ	きよ
ka	ki	ku	ke	ko	kwa	kja	kju	kjo
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぐわ	ぎや	ぎゆ	ぎよ
ga	gi	gu	ge	go	gwa	gja	gju	gjo
や	い	ゆ	いえ	よ				
ja	ji	ju	je	jo				
‘や/い や		‘ゆ/い ゆ		(‘よ/ いよ)				
?ja		?ju		(?jo)				
わ		をう						
wa		wu						
‘わ/う わ								
?wa								
ま	み	む	め	も		みや	(み ゆ)	みよ
ma	mi	mu	me	mo		mja	(mju)	mjo
な	に	ぬ	ね	の		にや	にゆ	によ
na	ni	nu	ne	no		nja	nju	njo
さ		す	せ	そ				
sa		su	se	so				
しゃ	し	しゆ	しえ	しよ				
ea	ei	eu	ee	eo				
ざ		ず	ぜ	ぞ				
za dza		zu dzu	ze dze	zo dzo				

じゃ	じ	じゅ	じえ	じよ				
za ɟʌ	zi ɟʌi	zu ɟʌu	ze ɟʌe	zo ɟʌo				
ちゃ	ち	ちゅ	ちえ	ちよ		つ		
tea	tei	teu	tee	teo		tsu		
は	ひ	ふ	へ	ほ		ひゃ	ひゅ	ひよ
ha	çi	ɸu	he	ho		ça	çu	ço
ら	り	る	れ	ろ		りゃ	りゅ	りよ
ra	ri	ru	re	ro		rja	rju	rjo
ん	ー		っ					
N	R		Q					

※ () は著者未確認

2.3 津堅方言の音声と語例

津堅の方言の音声と語例を以下に挙げる。2単語を挙げるように務めたが、1単語のものもある。なお、一覧の中の【共通語】【日本語】【外来語】が意味することは以下のとおりである。現代の言語生活は方言と共通語との二重言語生活だと言われるので、共通語を含めて音声体系を示しておく。ただし、共通語由来であっても必ずしも音声と同じだとは限らない。たとえば、[zenzen]（全然）ではなく [zenzen] のように共通語では外来語でしか見られない [ze] が津堅方言では音声として現れる。このように共通語と同じ語でも音声としては違う形態で実現されることも少なくない。

【共通語】津堅方言話者の発音による語例が採録できず、共通語の語例であること。

【日本語】津堅方言話者によって発音された共通語と同形式の語例であること。日本語からの借用語と考えられるものもあるが、それらについての一つ一つの検討はここでは省略する。

【外来語】外来語由来の語例であること。

表3 津堅方言の音声と語例

[a]	ア	[nagaami]	ナガアミ	(名)長雨
		[kumiai]	クミアイ	(名)組合【日本語】
[i]	イ	[puin]	プイン	(動)降る
		[kusui]	クスイ	(名)葉
[u]	ウ	[araun]	アラウン	(動)洗う

[e]	エ	[pa:e:]	パーエー	(名)かけっこ
		[mue:]	ムエー	(名)模合
[o]	オ	[?orooroΦuN]	オロオロフン	(動)うろうろする
[?a]	‘ア	[ama:N]	‘アマーン	(形)甘い
		[anda]	‘アンダ	(名)油
[?i]	‘イ	[?iN]	‘イン	(名)犬
		[?imi]	‘イミ	(名)夢
[?u]	‘ウ	[?uei]	‘ウシ	(名)牛
		[?uriN]	‘ウリン	(動)降りる
[?e]	‘エ	[?endahan]	‘エンダハン	(形)おとなしい
		[?o:e:]	‘オーエー	(名)喧嘩
[?o]	‘オ	[?o:?o:]	‘オー‘オー	(感)はい/うん ¹
		[?o:ru:]	‘オールー	(名)青
[pa]	パ	[pana]	パナ	(名)花/鼻
		[?apa:N]	‘アパーン	(形)薄い ²
[pi]	ピ	[piru]	ピル	(名)昼
		[karapisa]	カラピサ	(名)はだし
[pu]	プ	[puji]	プニ	(名)船
		[?appurigwa:]	‘アップリグワー	(名)飴玉
[pe]	ペ	[pe:han]	ペーハン	(形)早い/速い
		[tumpe:]	トゥンペー	(名)つば
[po]	ポ	[po:tu]	ポートウ	(名)鳩
		[po:po:]	ポーポー	(名)ポーポー〈お菓子の一種〉
[pja]	ピャ	[roppjaku]	ロツピャク	(数)六百【共通語】
[pju]	ピュ	[pju:pju:]	ピューピュー	(オ)ぴゅーぴゅー【共通語】
[pjo]	ピョ	[pjompjon]	ピョンピョン	(オ)ぴょんぴょん【共通語】
[ba]	バ	[basanai]	バサナイ	(名)バナナ
		[saba]	サバ	(名)草履
[bi]	ビ	[biti]	ビティ	(代)自分/自分の
		[teibi]	チビ	(名)尻
[bu]	ブ	[bura]	ブラ	(名)(クバでつくった)ひしゃく
		[kibuei]	キブシ	(名)煙
[be]	ベ	[ha:be:ru]	ハーベールー	(名)蝶
		[na:be:ra]	ナーベラー	(名)ヘチマ
[bo]	ボ	[bo:]	ボー	(名)棒

[bja]	ビヤ	[kusabo:bo:] [sambjaku]	クサボーボー サンビヤク	(オ)草ぼうぼう【擬態語】 (数)三百【共通語】
[bjju]	ビュ	[bjju:bjju:]	ビュービュー	(オ)びゅうびゅう【共通語】
[bjo]	ビョ	[bjo:iN]	ビョーイン	(名)病院【日本語】
[ta]	タ	[takahan] [karata]	タカハン カラタ	(形)高い (名)体
[ti]	ティ	[tida] [?uti:N]	ティダ ‘ウティーン	(名)太陽 (動)落ちる
[tu]	トゥ	[tui] [?usuntu]	トゥイ ‘ウスントウ	(名)鳥 (名)台所
[te]	テ	[tempura] [=te(:) 〈mise=ga an=te (:)>]	テンプラ ＝テー	(名)天ぷら【日本語】、 (助)＝よ く店があるよ
[to]	ト	[to:bi:ra:] [jo:i ton]	トビーラー ヨーイ トン	(名)ゴキブリ (感)よーい どん ³
[da]	ダ	[da:] [bindare:]	ダー ビンダレー	(感)どうれ ⁴ (名)洗面器
[di]	ディ	[dikirasan]	ディキラサン	(形)すばらしい
[du]	ドウ	[du:]	ドゥー	(名)体
[de]	デ	[de:kuni]	デークニ	(名)だいこん
[do]	ド	[do:gu] [?undo:ba:]	ドーク ‘ウンドーバー	(名)道具 (名)運動場
[ka]	カ	[kamuN] [suraka:gi:]	カムン スラカーギー	(動)食べる (名)美人
[ki]	キ	[kinu:] [?aeiki]	キヌー ‘アシキ	(名)昨日 (名)湯気
[ku]	ク	[kumi] [sukuin]	クミ スクイン	(名)米 (動)作る
[ke]	ケ	[mikege:han] [?akke:]	ミケゲーハン ‘アッキー	(形)憎い (感)あら/なんとまあ ⁵
[ko]	コ	[ko:iN] [kumiko:zi]	コーイン クミコージ	(動)買う (名)米麴
[kwa]	クワ	[kwamuja:]	クワムヤー	(名)子守

		[teɪŋkwa]	チンクワ	(名)かぼちゃ
[kja]	キヤ	[kjaku]	キヤク	(名)客【日本語】
		[kja:kja:]	キヤーキヤー	(感)きゃあきゃあ【共通語】
[kju]	キュ	[kju:eo:]	キューショー	(名)旧正月
		[uŋkju:]	ウンキュー	(名)運休
[kjo]	キョ	[kjo:ɕitsu]	キョーシツ	(名)教室【共通語】
		[ju:biŋkjoku]	ユービンキョク	(名)郵便局【日本語】
[ga]	ガ	[garasa:]	ガラサー	(名)カラス
		[mmaga]	ンマガ	(名)孫
[gi]	ギ	[kwa:gi]	クワーギ	(名)桑
		[magihan]	マギハン	(形)大きい
[gu]	グ	[gupu]	グプ	(名)こぶ
		[ja:guna:]	ヤーグナー	(名)家族
[ge]	ゲ	[ge:ge:]	ゲーゲー	(オ)げえげえ ⁶
		[kinteage:N]	キンチャゲーン	(形)かわいそう
[go]	ゴ	[go:ja:]	ゴーヤー	(名)にがうり
		[ji:go:han]	イーゴーハン	(形)かゆい
[gwa]	グワ	[gwansu]	グワンス	(名)祖先
		[ʔugwan]	‘ウグアン	(名)拝み/御願い
[gja]	ギャ	[gja:gja:]	ギャーギャー	(オ)ぎゃあぎゃあ【共通語】
[gju]	ギユ	[gju:niku]	ギューニク	(名)牛肉【日本語】
[gjo]	ギョ	[gjo:zi]	ギョージ	(名)行事【日本語】
		[ko:gjo:]	コーギョー	(名)工業【日本語】
[ja]	ヤ	[ja:]	ヤー	(名)家
		[maja:]	マヤー	(名)ネコ
[ji]	イ	[jinagu]	イナグ	(名)女
		[ji:N]	イーン	(動)酔う
[ju]	ユ	[ju:]	ユー	(名)湯
		[jumi]	ユミ	(名)嫁
[je]	イエ	[je]	イエ	(感)おい ⁷
		[-je<ai-je>]	-イエ<アイイエ>	(接尾)さくあるさ ⁸
[jo]	ヨ	[jo:han]	ヨーハン	(形)弱い
		[mateuki=jo]	=ヨ<マチュキヨ>	(助)まっておいてね
[ʔja]	‘ヤ/イヤ	[ʔja:]	‘ヤー/イヤー	(代)あなた
[ʔju]	‘ユ/イユ	[ʔju:]	‘ユー/イユー	(名)魚
[ʔjo]	‘ヨ/イヨ	著者未確認		

[wa]	ワ	[waraun]	ワラウン	(動)笑う
		[eiwa:ei]	シワーシ	(名)十二月
[wu]	ヲウ	[wutu]	ヲウトウ	(名)夫
		[wu:]	ヲウー	(名)緒
[?wa]	‘ワ/ウワ	[?wa:]	‘ワー/ウワー	(名)豚
		[?wa:bi]	‘ワービ/ウワービ	(名)上/表面
[ma]	マ	[masu]~	マス(マース)	(名)塩
		[ma:su]		
		[nama]	ナマ	(名)今
[mi]	ミ	[mizi]	ミジ	(名)水
		[einnami]	シンナミ	(名)かたつむり
[mu]	ム	[muku]	ムク	(名)婿
		[kamun]	カムン	(動)食べる
[me]	メ	[me:naei]	メーナシ	(名)毎日
		[?uke:me]	‘ウケーメー	(名)おかゆ
[mo]	モ	[mo:iN]	モーイン	(動)踊る
		[mmo:]	ンモー	(オ)モー ⁹
[mja]	ミヤ	[mja:mja:]	ミヤーミヤー	(オ)ミヤーミヤー ¹⁰
[mju]	ミュ	著者未確認		
[mjo]	ミヨ	[mjo:zi]	ミヨージ	(名)名字
[na]	ナ	[naeika:N]	ナシカーン	(形)なつかしい/かなしい
		[kanahan]	カナハン	(形)愛おしい
[ni]	ニ	[ninzun]	ニンジュン	(動)寝る
		[papi]	パニ	(名)羽
[nu]	ヌ	[nunu]	ヌヌ	(名)布
		[sunui]	スヌイ	(名)もずく
[ne]	ネ	[kune:da]	クネーダ	(名)このまえ/先日
		[ne:san]	ネーサン	(名)姉さん
[no]	ノ	[no:iN]	ノーイン	(動)縫う
		[?ino:]	‘イノー	(動)内海
[nja]	ニヤ	[konnaku]	コンニャク	(名)蒟蒻
[nju]	ニュ	[nju:su]	ニュース	(名)ニュース【外来語】
[jno]	ニョ	[jno:kensa]	ニョーケンサ	(名)尿検査【共通語】

[sa]	サ	[sa:ta:]	サーター	(名)砂糖
		[wassan]	ワッサン	(形)悪い
[ei]	シ	[eigun]	シグン	(動)注ぐ
		[maeigi]	マシギ	(名)まつげ
[su]	ス	[suri]	スリ	(名)袖
		[nisun]	ニスン	(動)似ている
[se]	セ	[sen]	セン	(数)千
		[pise:n]	ピセーン	(形)薄い ¹¹
[se]	ソ	[so:rensa:]	ソーレンサー	(名)兄弟/親戚
		[?isohan]	‘イソハン	(形)うれしい
[ea]	シャ	[cakko:bi]	シャッコービ	(名)しゃつくり
		[zitenea]	ジテンシャ	(名)自転車【日本語】
[eu]	シュ	[pieupieuφun]	ピシュピシュフン	(オ)じんじんする ¹²
		[reneu:]	レンシュー	(名)練習【日本語】
[ce]	シエ	[cence:]	シエンシエー	(名)先生
		[mice]	ミシエ	(名)店
[eo]	シヨ	[eo:ju]	ショーユ	(名)醤油【日本語】
		[saieo]	サイシヨ	(名)最初【日本語】
[za]	ザ	[ei:za]	シーザ	(名)年上
		[kaza]	カザ	(名)匂い ¹³
[zi]	ジ	[zin]	ジン	(名)お金
		[kazi]	カジ	(名)風
[zu]	ズ	[zukku]	ズック	(名)運動靴【外来語】
		[ju:zu]	ユーズ	(名)用事
		[ninzun]	ニンズン	(動)寝る
[ze]	ゼ	[nekoze]	ネコゼ	(名)猫背【日本語】
[zo]	ゾ	[zo:kin]	ゾーキン	(名)ぞうきん【共通語】
		[gunzo]	グンゾク	(名)軍属【日本語】
[za]	ジャ	[zi:za]	シージャ	(名)年上
		[kaza]	カジャ	(名)匂い ¹³
[zu]	ジュ	[zu:]	ジュー	(名)尾
		[su:zu:han]	スージューハン	(形)しおからい
		[ninzun]	ニンジュン	(動)寝る
[ze]	ジェ	[zenzen]	ジエンジェン	(副)全然
		[eenzen]	シエンジェン	(名)戦前
[zo]	ジョ	[zo:]	ジョー	(名)門
		[zo:to:]	ジョートー	(名)上等
[tea]	チャ	[teasa]	チャサ	(疑)どのくらい/いくら
		[?acitea]	‘アシチャ	(名)下駄

[tei]	チ	[teiri]	チリ	(名)ちり
		[tu:tei]	トゥーチ	(名)いつも
[teu]	チュ	[teu]	チュ	(名)人
		[itteun]	イツチュ	(動)入っている
[tee]	チエ	[tee:]	チエー	(感)おい ¹⁴
		[ti:tee:]	ティーチエー>ティー チ=ヤ	(融合形)一つは
[teo]	チヨ	[teo:zo]	チョーゾ	(名)長女【日本語】
		[ʔi:teo:bi]	‘イーチョービー	(名)トンボ
[tsu]	ツ	[satsu]	サツ	(名)お札
		[eitcigwatsu]	シチグワツ	(名)七月
[ha]	ハ	[haija:gwa]	ハイヤーグワ	(感)そーれ ¹⁵
		[ma:han]	マーハン	(形)おいしい
[çi]	ヒ	[çi:]	ヒー	(動)しろ ¹⁶
		[ko:çi:]	コーヒー	(名)コーヒー【外来語】
[φu]	フ	[φucika]	フシカ	(名)二日
		[saφun]	サフン	(名)石鯛
[he]	ヘ	[he:ku]	ヘーク	(形)早く/速く ¹⁷
		[he:bara]	ヘーバラ	(名)南風原(地名)
[ho]	ホ	[ho:tiikun]	ホーティーイクン	(動)つれていく
		[hon]	ホン	(名)本【日本語】
[ça]	ヒヤ	[ʔja:ça]	‘ヤーヒヤ/イヤーヒ ヤ	(接尾)おまえ ¹⁸
				(数)二百円【日本語】
[çu]	ヒユ	[çu:çu:]	ヒューヒュー	(オ)ひゅうひゅう【共通語】
[ço]	ヒヨ	[ço:ban]	ヒョーバン	(名)評判【共通語】
[ra]	ラ	[eira]	シラ	(名)顔
		[tira]	ティラ	(名)太陽
[ri]	リ	[ʔiritea:]	‘イリチャー	(名)炒め物
		[φuri]	フリ	(名)筆
[ru]	ル	[guruhan]	グルハン	(形)すばやい
		[ʔaru]	‘アル	(名)かかと
[re]	レ	[ʔakare:kupi]	‘アカレークニ	(名)にんじん
		[renraku]	レンラク	(名)連絡【日本語】
[ro]	ロ	[rokan]	ロカン	(名)旅館
		[kakiguro:N]	カキグローン	(動)書きにくい
[rja]	リヤ	[rjaku]	リヤク	(名)略【共通語】

[rju]	リュ	[rju:kju:]	リユーキュー	(名)琉球【日本語】
[rjo]	リョ	[horjo:]	ホリョー	(名)捕虜
N	ン	[mmu]	ンム	(名)さつまいも/芋
		[jumun]	ユムン	(動)読む
		[sanniN]	サンニン	(名)月桃
		[konjaku]	コンニャク	(名)蒟蒻
		[teɪŋkwa]	チンクワ	(名)かぼちゃ
R	ー	[mi:]	ミー	(名)目
		[ka:mi]	カーミ	(名)亀/瓶
Q	ツ	[watta:]	ワッター	(代)わたしたち
		[jassan]	ヤッサン	(形)安い

語例における注釈

1. 応答に用いる。おもに男性が使う。
2. 「味が薄い」の意味での「薄い」の意味。
3. 徒競走のスタート時のかけごえ。
4. 疑問詞の意味ではなく、何か要求するときに発せられる感動詞用法。
5. 驚いたときに発せられる。
6. 物を吐く様子を表す擬態語。
7. 呼びかけるときに使われることば。
8. [-je] は、jum-u-je (読む-NPST-IND) のように使われる。語構造としては、基本形jum-u-Nの-Nと同位置にあるので、接辞として扱っている。ただし、jumuNよりも話者の断定判断が強く表現されるので、終助詞的な機能も持つと考えられる。
9. 牛の鳴き声を表す擬声語。
10. ネコの鳴き声を表す擬声語。
11. 板などに厚みがないという意味での「薄い」の意味。
12. 虫などにかまれたときなどに感じる痛みの様子を表す擬態語。
13. 特に「悪い匂い」の意味で使われる。
14. 相手を脅すようなときに発せられる。「ちえー ごーぐしひーね ゆるはんろ」(おい、悪口言ったらゆるさんよ) のように使われる。
15. 何か荷物を持ち上げるときなどに発するかけ声。
16. 「する」の命令形。
17. 活用形により、「へ」「ぺ」の両形が認められる。基本形では「ペーはん」と発音されるが、連用修飾の形式では「へーく」で発音されることが多い。
18. 二人称「やー/いやー」(あなた)に *ça* を付属させると卑罵表現となる。

3. 津堅方言の名詞の格

格形式はそれ自体が自立して用いられることはほとんどなく、名詞に付属した形で用いられる。また、かりまた (2015) が「名詞の格形式は、構文論的な機能と構文論的な意味を表す文法形式なのである。」(P.184) と述べるように、格の記述に関しては、述語部分における語(動詞や形容詞など)が表す動作、作用、状態などと名詞とがどのような関係をもっているのかを標示する意味的な機能と、文中でどのような成分になりうるかという構文論的な機能との両面に言及する必要があるだろう。したがって、本稿では、名詞の格について、意味的な機能と構文論的な機能との両面からの記述するようにした。

3.1 津堅方言の格形式の概観

津堅方言の格形式として次の格形式が確認できた。ハダカ格、*ga* 格、*nu* 格、*ni* 格(与格)、*si* 格(向格)、*Nka* 格、*Nzi* 格、*uti* 格、*si* 格(具格)、*kara* 格、*mari* 格、*ni* 格(時間格)、*tu* 格、*juka* 格、以上 14 の格形式である。*ni* 格と *si* 格については、機能差が大きいことや出自などの違いが考えられることから、*ni* 格(与格)と *ni* 格(時間格)、*si* 格(向格)と *si* 格(具格)とを、それぞれ別形式として扱う。次ページに格形式、機能および例文を一覧にしてまとめた。

表 4 津堅方言の格形式と機能

格形式	機能	例文	例文 No
ハダカ格	主格	<i>sooree=∅ u-u-gutu=jo.</i> 兄弟=NOM いる-NPST-CSL=SFP 兄弟が いるからね。	3
	属格	<i>uree waa=∅ muN ja-ha.</i> これ.TOP 私=GEN もの COP=IND2 これは 私 の ものであるよ。	5
	対格	<i>nuru=∅ kaak-ine mizi=∅ num-u-N.</i> 喉=NOM かわく-COND 水=ACC 飲む-NPST-IND1 喉が 渴いたら 水 を 飲む。	8
<i>ga</i> 格	主格	<i>koori=ga tuk-ine mizi=ru na-i-ru.</i> 氷=NOM 溶ける-COND 水=FOC なる-NPST-ADN 水 が とけると水ぞなる (=水になる)。	12
	属格	<i>ujaNsaa=ga kasi=ru simirar-u-ta-ru.</i> 親たち=NOM 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN 親たちの 手伝いぞ (手伝いを) させられた。	14
<i>nu</i> 格	主格	<i>wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.</i> 私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP 私たちの 人 が (家族の人) 今使っているよ。	15
	属格	<i>kii=nu pata=Nka pana sa-su-N.</i> 木=GEN 枝=LOC1 花 咲く-PROG-IND1 木の 枝に花が咲いている。	19
<i>ni</i> 格	与格	<i>taa=ni kik-iba waka-i-ga=ja.</i> 誰=DAT 聞く-COND 分かる-NPST-Q=SFP だれに 聞けば、分かるかな。	24

		<i>heega ure=φ simabananaa=ni nis-u-N=ro.</i> だけど これ=TOP 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND1=SFP だけど、これは 島バナナに 似ているよ。	25
		<i>waN=ni ir-a.</i> 私=DAT 得る-IMP 私に やれ (=ちょうだい)。	28
		<i>nusuru=ga zjuNsa=ni kasimir-at-ta-N.</i> 泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST-IND1 泥棒が 警察に 捕まえられた。	30
		<i>asa X=ni mut-a-u-waa.</i> 明日 人名=DAT 持つ-CAUS-IND1 明日 Xに 持たせるよ。	32
si 格	向格	<i>inagu=φ cu=nu jaa=si hee-ku ik-aN=ro.</i> 女=TOP 人=GEN 家=ALL 早く-INF 行く-NEG=SFP (正月には) 女は人の 家へ 早く行かないよ。	38
	与格	<i>eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.</i> 円=ALL 切り替える-PST-CSL 少し COP-PST-IND1=SFP (ドルから) 円に 切り替えたから、少しだったよ。	42
	到達格	<i>hanako=kara ziroo=si kunu jaa=Nzi suda-ti.</i> 花子=ABL 次郎=ALL この 家=LOC2 育つ-SEQ2 ハナコから ジロウまで、この家で育って。	44
Nka 格	所格	<i>ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.</i> あそこ=LOC1 二軒 店=NOM ある-SEQ1-IND4 あそこに 二軒店があるよ。	47
	具格	<i>nabi=Nka tak-u-N.</i> 鍋=LOC1 炊く-NPST-IND1 鍋で 炊く。	55
	与格	<i>miici=Nka wakir-i.</i> 三つ=LOC1 分ける-IMP 三つに 分ける。	58
Nzi 格	所格	<i>uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.</i> ここ サンエー=LOC2 会う-PST=SFP ここ (の) サンエー (スーパーの名称) で 会ったの?	59
	到達格	<i>nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu=φ na-ti.</i> 二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ2 (手術してから) 二月の十二日で二ヶ月なって。	61
uti 格	所格	<i>sima=uti umari-ti sima=Nka=ru uN=ro.</i> 島=LOC3 生まれる-SEQ2 島=LOC1=FOC いる=SFP 島で 生まれて、島にいるよ。	64
si 格	具格	<i>sabaki=si ka:zi sabak-i=be.</i> 櫛=INST 髪 梳け-IMP=SFP 櫛で 髪を梳けよ。	65
kara 格	奪格	<i>tookjoo=kara ki-su-N.</i> 東京=ABL 来る-PROG-IND1 東京から 来ている。	70
	所格	<i>pakkee ami+naka=kara ac-ci+ki-si.</i> DSC 雨+中=LOC 歩く-SEQ2+来る-SEQ2 アッケー、雨の中を 歩いて来て。	73

具格		<i>zuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.</i> 十時=GEN 船=ABL 来る-PST-IND1=QUOT 十時の船で来たって。	75
		<i>saataa=ja uuzi=kara suku-i-N=te.</i> 砂糖=TOP さとうきび=ABL 作る-NPST-IND1=SFP 砂糖はさとうきびから作るさ。	77
		<i>ure na deNwacoo=kara tumeet-aku-ru=baate.</i> これ DSC 電話帳=ALL 探す-PROG-ADN=SFP 彼は、ナ、電話帳で探しているわけ。	80
<i>mari</i> 格	到達格	<i>ukibaru-gwaa=mari Nzj-u-N=cuN=jo.</i> 浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND1= QUOT=SFP 浮原島まで行くなってよ。	82
<i>ni</i> 格	時間格	<i>suutaa=ja meenasi rukuzi=ni uk-i-N.</i> お父さん=TOP 毎日 6時=TIM 起きる-NPST-IND1 お父さんは毎日 6時に起きる。	87
<i>tu</i> 格	共格	<i>kaNkoku=nu hitu=tu miitu=ϕ na-ti=jo.</i> 韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ2=SFP 韓国の人と夫婦になってね。	88
	比格	<i>waN=ja isiku=tu ni-su-N.</i> 私=TOP いとこ=COM 似る-PROG-IND1 私はいとこと似ている。	94
<i>juka</i> 格	比格	<i>waN=juka tiicee siizaa ra-ru.</i> 私=CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN 私より一つは上だよ。	95

3.2 津堅方言の格形式と機能

以下では、ハダカ格、*ga* 格、*nu* 格、*ni* 格（与格）、*si* 格（向格）、*Nka* 格、*Nzi* 格、*uti* 格、*si* 格（具格）、*kara* 格、*mari* 格、*ni* 格（時間格）、*tu* 格、*juka* 格、の 14 の格形式について、例文 1 を提示しながら、その文法機能を記述する。

3.2.1 ハダカ格（グロス：機能に応じて NOM、GEN、ACC）

ハダカ格には主格、属格、対格の機能があるが、ハダカ格がこれらの機能を有していることは、北琉球方言の特徴の一つともいえるものである。ハダカ格が主格や対格を表す場合、多くは述語と連続的に現れることが多い（例文 3～4、6～9）。たとえば、*ga* 格や *nu* 格の場合、次のように、述語部分までの間に、補語や状況語といった複数の構成要素がある。

?jaa=ga asa jaa=Nka uu-riba wanu su-u-wa=ja.
 あなた= 明日 家= 居る- 私.TOP 来る-NPST-IND3=SFP
 NOM LOC1 COND
 主語 状況語 補語 述語
 あなたが 明日家に いる ならば、私は来るよ（＝行くよ）。 ※*ga* 格の 10
 の例

wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.

私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP
 規定語 主語 状況語 述語

私たちの 人が (=家族の人が) 今 使っているよ。

※*nu* 格の 15

の例

すなわち、ハダカ格の場合、*ga* 格や *nu* 格を配せずとも、述語部分に連続的につながっていくので、述語との関係が自明のこととして処理される。たとえば、次の 1 や 2 の例文において、主格と対格との関係で見た場合、述語との接近度は、対格の方が述語に近く、対格と述語とが連続して現れることが多く見られる。その分、主格と述語との距離は遠くなるので、*ga* などの格が配され、主格として明示される。特に 2 の例文では、*rusi* と *sjeNsjee* の二つの名詞は、ともに人との関係や人の属性を表す、いわゆる人名詞である。「*rusi nataN* (友達になった)」「*sjeNsjee nataN* (先生になった)」のように、両方ともがハダカの場合、いずれも述語の *nataN* の補語としての関係を築くことができる。もちろん、*rusi sjeNsjee nataN* という語順から、*rusi* が主語、*sjeNsjee* が補語ということは明らかであるが、*ga* 格が配されることで、文成分の役割は一層明らかにされる。述語との関係において見た場合、対格と述語との関係の方が、主語と述語との関係よりも結びつきが強いと捉えられる。

1. *muuku=ga kuruma=ϕ mu-ca-kutu.*
 婿=NOM 車=ACC 持つ-PST-CSL
 婿が 車 を持っているから。
2. *wattaa=ϕ rusi=ga sjeNsjee=ϕ na-ta-N=tsuN=ro.*
 私 友達 先生=ACC なる-PST-IND1=QUOT=SFP
 達.=GEN =NOM
 私達の友達が 先生に なったってよ。

以下、ハダカ格が現れた例文を示す。3~4 は主格、5 は属格、6~9 は対格である（8 は主格と対格の二つあり）。

3. *sooree=ϕ u-u-gutu=jo inagu+sooree.*
 兄弟=NOM いる-NPST-CSL=SFP 女兄弟
兄弟が いるからね、女兄弟。
4. *sigutu=ϕ uwa-ine num-i-ga+ik-a=jaa.*
 仕事 終わる-COND 飲む-SEQ1-PURP+行く-INT=SFP
 ★ =NOM
仕事が 終わったら、飲みにいこうよ。
5. *uree waa=ϕ muN ja-ha.*

- ★ こ れ.TOP 私=GEN もの COP=IND2
これは 私の ものであるよ。
6. koohii= ϕ mucu+kuuba sim-u-ta-N=ja aNca.
コーヒー 持ち.SEQ2+来 済む-NPST-PST- それなら
=ACC る.COND IND1=SFP
コーヒーを持ってくれば良かったね、それなら。
7. aNci pihja-ta-riba kooto= ϕ ki-si+suu-ta=muN.
★ こんなに 寒い-PST-COND コート 着る-SEQ2+来る.NPST-PST=SFP
=ACC
こんなに寒いなら、コートを 着て来たのに。
8. nuru= ϕ kaak-ine mizi= ϕ num-u-N.
★ 喉 かわく- 水=ACC 飲む-NPST-IND1
=NOM COND
喉が 渴いたら 水を 飲む。
9. uhucu= ϕ na-ine pairotto= ϕ na-i+busa-N=jaa.
★ 大人=DAT なる-COND パイロット= なる-NPST+欲しい-IND1=SFP
ACC
大人になったら、パイロットに なりたいね。

3.2.2 ga 格 (グロス : NOM)

ga 格は、主格、属格の機能を持つ。例文に見られるように、主格の場合、動作、変化、状態の主体を表す。特に、主体が人や物など具体的な事物であることが多い。「仕事」「連絡」「戦」など、出来事や事柄が主体となる場合も承接できるが、同じ機能を持つ nu 格やハダカ格の方がやや優先されるような傾向がある (ハダカ格の例文 4、nu 格の例文 17~18)。

以下、ga 格が現れた例文を示す。10~12 は主格、13~14 は属格である。

10. ?jaa=ga asa jaa=Nka uu-riba wanu su-u-wa=ja.
あなた= 明日 家= 居る- 私.TOP 来る-NPST-IND3=SFP
NOM LOC1 COND
あなたが 家にいるならば、私は来るよ (=行くよ)。
11. missi=ga wakar-aN-riba deNwa+hii=jo.
★ 道=NOM 分かる-NEG-COND 電話+する.IMP=SFP

道が分からなければ電話しなさいよ。

12. *koori=ga tuk-ine mizi=ru na-i-ru.*

★ 氷=NOM 溶ける-COND 水=FOC なる-NPST-ADN

水がとけると水ぞなる (=水になる)。

13. *?jaa=ga ikigwaN-gwa ?jaa=ga ikuci=nu kwa ja-ga.*
 あなた 息子-DIM あなた いくつ=GEN 子 COP-Q
 =NOM =NOM

あなたの 息子はあなたがいくつの時の子であるか？

14. *ujaNsaa=ga kasi=ru simirar-u-ta-ru.*

★ 親たち 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN
 =NOM

親たちの 手伝いぞ (=手伝いを) させられた。

3.2.3 nu 格 (グロス : GEN)

nu 格も *ga* 格と同じように、主格、属格の機能を持つ。主格の場合と同様に、動作、変化、状態の主体を表す。特に、「連絡」「戦」など、出来事や事柄が主体となる場合、*ga* 格よりもやや優先的に配される傾向がある (例文 17~18)。また、属格では、数詞やそれに準ずる名詞の場合には *nu* 格が用いられる (例文 20~21)。

共通語では、*nu* 格に対応する「ノ格」は「学校への道」のように格助詞の中でも他の助詞と複合的に用いることができるが、津堅方言では確認することが難しい²。*gakkoo = si ik-u-ru misi* (学校=ALL 行く-NPST-AND 道、学校へ行く道) のように述語を伴う文で表現されることが多い。複合的な用法は共通語ほど発達させていないと考えられる。

以下、*nu* 格が現れた例文を示す。15~18 は主格、19~21 は属格である。

15. *wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.*
 私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP
 私たちの 人が (=家族の人) 今使っているよ。

16. *asa nami=nu taka-a-riba punee Nzir-aN-ra=hazi=ro.*

★ 明日 波=GEN 高い-ADJ-COND 船.TOP 出る-NEG-ADN=INFR =SFP

あした 波が 高ければ、船は出ないだろう。

17. *keNco=kara mata ama=si ari reNraku=nu ki-si=jo. ...*
 県庁=ABL また あそこ DSC 連絡=GEN 来る-SEQ2=SFP
 =ALL

県庁からまたあそこ (=学校) へ、アレ、連絡が来てね… (以降、会話が続く)。

18. *ikusa=nu uwa-ine sima=Nka mudu-i-N=ci.*
 戦=GEN 終わる=COND 島=LOC1 戻る-NPST-IND1=QUOT
戦が終われば、島に戻ると言って。

19. *kii=nu pata=Nka pana sa-su-N.*
 木= GEN 枝=LOC1 花 咲く-PROG-IND1
木の枝に花が咲いている。

20. *X+jonaN=nu neesaN=ni=ja meenasi nura-ar-u-ta-N.*
 X+四男=GEN 姉さん=DAT= TOP 毎日 怒る-PASS-PROG-PST-IND1
X 四男の 姉さんには毎日怒られていた。

21. *naa misee=nu waraba-taa=ga ki-si.*
 DSC 三人=GEM 子ども-PL=NOM 来る-SEQ2
 ナー、三人の子どもたちが来て。

3.2.4 ni 格 (グロス : DAT)

ni 格はいわゆる間接補語としてはたらく与格を標示する機能を持つ。述語部分が動作、行為を表す場合、その動作、行為の及ぶ対象を表す (例文 22~24)。述語部分が状態を表す場合、その状態との関係性を表す (25~26)。たとえば、「似る」に承接する場合、例文 25 に見えるように、指示代名詞「*ure* (これ)」で指されたものと「島バナナ」との関係を表す。これは *tu* 格にも見られる比較基準を標示する機能としても捉えられる。また、例文 26 は「姉さん」と「*aana*」が同一のものを表す対応関係にあることを表す。

22. *kusaa=nu cuu=ni nama ka-tu-N=ro.*
 後ろ= GEN 人=DAT 今 貸す-PROG-IND1=SFP
 後ろの (家の) 人に、今、貸しているよ。

23. *uri hoN=ϕ waN=ni kara(h)-aN=ga.*
 こ 本=ACC 私=DAT 貸す-NEG=Q
 ★ の
 この本を 私に 貸さないか (=貸してくれないか)。

24. *taa=ni kik-iba waka-i-ga=ja.*

★ 誰=DAT 聞く-COND 分かる-NPST-Q=SFP

だれに 聞けば、分かるかな

25. *heega ure=φ simabananaa=ni nis-u-N=ro.*
 だけど これ 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND1=SFP
 =TOP

だけど、これは 島バナナに似ているよ。

26. *neesan=ni aana.*
 姉さん=DAT アーナ
 (方言では) 姉さんに「アーナ」(と言う)。

さらに、*ni* 格は間接補語としてはたらくので、授受動詞が述語である文(例文 27~28)の他、受身構文(29~31)、使役構文(32~36)において、授受の相手、受身の相手、使役の相手を標示する。ところで、いわゆる迷惑受身といわれる間接受身文はあまり発達していないが、共通語からの影響もあってか、例文 31 のような例も見られた³。

27. *iN=ni muN=φ ki-ta-gutu iso-zi kwo-ta-N.*
 犬=DAT モノ やる-PST-CSL 喜ぶ- 食べる-NPST-PST-IND1
 =ACC SEQ2
 ★ 犬にえさをやったら、喜んで食べた。

28. *waN=ni ir-a.*
 私=DAT 得る-IMP
 ★ 私にやれ(=ちょうだい)。

29. *iN=ni uur-at-ti=jo (>uur-ar-ti=jo) reezi ja-ta-N.*
 犬= 追う-PASS-SEQ2=SFP 大変 COP-PST-IND1
 ★ DAT
犬に追われて大変だった。

30. *musuru=ga zjuNsa=ni kasimir-at-ta-N. (>kasimir-ar-ta-N)*
 泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST-IND1
 ★ 泥棒が 警察に捕まえられた。

31. *uri zjuusu wanu num-i+busa-ta-iga.*

- ★ この ジュー 私.TOP 飲む-NPST+欲しい-PST-ADVRS
ス

siizja=ni num-at-ta-N. (>*num-ar-ta-N*)

兄=DAT 飲む-PASS-PST-IND1

このジュース、私も飲みたかったけど、兄に飲まれた。

32. *asa X=ni mut-a-u-waa..* (>*mut-ah-u-waa*)

明日 X=DAT 持つ- CAUS-NPST-IND4

明日 Xに持たせるよ。

33. *mmaga=ni ziN=φ ir-a-ca-N.* (>*ir-ah-ta-N*)

- ★ 孫=DAT お金=ACC 得る-CAUS-PST-IND1

孫にお小遣いを得させた (=あげた)。

34. *ikigwaN-gwa=ni juubiNkjoku=si jar-a-ca-N.* (>*jar-ah-ta-N*)

- ★ 息子-DIM=DAT 郵便局=ALL 遣る-CAUS-PST-IND1

息子を郵便局に行かせた (=行ってもらった)。

35. *uri warabi=ni hoN=φ jum-a-aN=ga.* (>*jum-ah-aN=ga*)

- ★ この 子ども=DAT 本=ACC 読む-CAUS-NEG=Q

この 子どもに本を読ませないか (=読ませなさい)。 {note: 「読む」動作主は子ども}

36. *uri hoN ?jaa=ga kkwa=ni jum-a-i=be.* (>*jum-ah-i=be*)

- ★ この 本=ACC あなた=GEN 子ども=DAT 読む-CAUS-IMP=SFP

この本をあなたの 子どもに読ませなさい。 {note: 「読む」動作主は子ども}

3.2.5 *si* 格 (グロス : ALL)

si 格は、行く先を表す向格としての機能を持つ。したがって、「行く」「登る」などの移動動詞との共起関係が強い。さらに、「入る」のような移動と滞留(停滞)との両方の性質を持つ動詞の場合、あとに挙げる *Nka* 格との競合関係にあると見られ、例文 41 と 50 (*Nka* 格)のように、同内容を、格形式を変えて表現することが可能である。つまり、動詞「入る」の「移動」の性質に関わらせれば *si* 格が配され、「滞留(停滞)」の性質に関わらせれば *Nka* 格が配されると考えられる。

37. *juubiNkjoku=si ik-u-riba kitte=φ koo-ti+kuu=jo.*

- ★ 郵便局=ALL 行く-NPST-COND 切手=ACC 買う-SEQ2+来る-IMP=SFP

郵便局へ行くなら、切手を買ってきてね。

38. *inagu*= ϕ *cu*=*nu* *jaa*=*si* *hee*-*ku* *ik*-*aN*=*ro*.
女=TOP 人=GEN 家=ALL 早く-INF 行く-NEG=SFP
(正月には) 女は人の家へ早く行かないよ。

39. *kii*=*nu* *ii*=*si* *nubuj*-*aaku*-*N*=*baajo*.
木 上 登る-PROG-IND1=SFP
=GEM =ALL
木の上へ登っていくわけよ。

40. *hutoN*=*si* *icca*-*gutu* *sugu* *niN*-*ti*+*Nzj*-*u*-*N*.
布団 入る.PST-
=ALL CSL すぐ 寝る-SEQ2+行く-NPST-IND1

- ★ (眠れないと思ったけれど) 布団へ入ったら、すぐ寝てしまった。

41. *tunai*=*si* *nusuru*=*nu* *iccu*-*muN*=*nu* *biti*= ϕ

- ★ 隣=ALL 泥棒=NOM 入る.NPST-CSL=SFP 私達=ADD

kiisikir-*aN*-*riba* *nar*-*aN*.

気をつける-NEG-COND なる-NEG

隣へ泥棒が入ったので、私達も気をつけないといけない。

さらに、派生的な機能として、動作や行為の結果を標示する機能がある(42~43)。*si*格は向格としての機能を持つが、それはすなわち、移動の着点をも意味する。したがって、変化の帰結を標示する機能として機能を拡大させたものと考えられる。移動の着点としての標示機能は、次の例文からも確認できる。

keNco=*kara* *mata* *ama*=*si* *ari* *reNraku*=*nu* *ki*-*si*=*jo*...
県庁=ABL また あそこ DSC 連絡=GEN 来る-SEQ2=SFP
=ALL

県庁からまたあそこ(=学校)へ、アレ、連絡が来てね…(以降、会話が続く)。

※*nu*格の17再掲

上記の例は、「連絡」の移動区間が「県庁からあそこ(=学校)へ」と標示されている。つまり、「連絡」の発信起点として*kara*格で「県庁」が示され、着信終点として*si*格で「あそこ(=学校)」が示されている。移動の終点標示から、変化の帰結標示へと機能が拡大

していく過程として捉えられる。。

さらには、*si* 格は、範囲や列挙の終点標示としても用いられる。44 は連続的な範囲を表しており、「ハナコからジロウまで」が「この家で育つ」たとして、その背景には「ハナコ」から「ジロウ」の間に複数の人がいる。一方、45 や 46 は、列挙として「ハナコ」や「タロウ」「ジロウ」が挙がっている。一部列挙 (45) の場合にも全部列挙 (46) の場合にも、*kara* 格で列挙の始点が、*si* 格で列挙の終点が標示される。この場合、意味的な終点というよりも文における形式的な終点としての機能になっていると考えられる。

42. *eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.*
 円=ALL 切り替える-PST- 少し COP-PST-IND1=SFP
 CSL

(ドルから) 円に切り替えたから、(切り替えた後のお金は) 少しだったよ。

43. *mjoozi=ga X=si kawa-ta-kutu saisjo=wa nareNkatta.*
 名字=NOM X=ALL 変わる-PST- 最初=TOP なれる.NEG.PST
 CSL

名字が X に変わったから、最初は慣れなかった。

44. *hanako=kara ziroo=si kunu jaa=Nzi suda-ti.*
 ハナコ=ABL ジロウ この 家 育つ-SEQ2
 =ALL =LOC2

ハナコからジロウまで、この家で育って。
 名

※人名は仮

45. *uttaa mata zjuNni ik-aN baa+haN=na*
 これたち また ほんとう 行く-NEG 拒否すること+する.NEG=SFP
 に

hanako=kara taroo=si=jo.
 ハナコ=ABL タロウ=ALL=SFP

あれたち、また本当に行かないよう (=家にかえらないよう) はしなくてね、ハナコからタロウから よ。

※人名は仮名

46. *buru mata uma rokusiN=ja*
 全部 また ここ 独身=COP
hanako=kara taroo=kara ziroo=si.
 ハナコ=ABL タロウ=ABL 次郎=ALL

みんなまた、ここ (の人たちは)、独身だ。ハナコから、タロウから、ジロウか
ら。

※

人名は仮名

3.2.6 *Nka* 格 (グロス : LOC1)

Nka 格は、述語の間接補語として人や物の存在する場所を標示する (例文 47~49) 所格の機能を持つ。また、例文 50~54 のように、移動の帰着点、すなわち人や物の「滞留 (停滞)」場所としての標示機能を持つ。「滞留 (停滞)」は人や物が移動の帰着点に「ある」ことであり、つまり「存在する」ということと類似のこととして解釈される。この場合、「移動」の意味も必然的に包含されているが、「移動」の意味の表出具合は動詞によって差がある。たとえば、共通語でも「彼は教室へ入るとまっすぐ自分の席へ向かった」「彼は教室に入るとまっすぐ自分の席へ向かった」のように「ニ」「へ」の共起関係においてその程度差があまり見られないものもあれば、「駅へ着くと電車がすぐ来た」「駅に着くと電車がすぐ来た」のように、「ニ」ほど「へ」と「着く」との共起関係が強くない場合もある。一方、「駅へ着く前に電車が来た」のように、駅へ向かう途上であれば、「へ」と「着く」との共起関係は高まるようにも思える。つまり、「入る」は「移動」「帰着」の両側面の意味に分化しやすいが、「着く」は「帰着」の意味が前面に出されるといえる。津堅方言の *iccuN* (入る) も共通語の「入る」と同じように捉えられ、「移動」「帰着」の両側面に意味が分化する結果、*si* 格と *Nka* 格の競合関係が生じていると捉えられる (例文 41 (*si* 格) と 50)。

47. *ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.*
 あそこ 二軒 店=NOM ある-SEQ1-IND4
 =LOC1
 あそこに二軒店があるよ。
48. *ane uma=Nka gumi=ga a-N=ro.*
 ほら そこ ゴミ ある.NPST-IND1=SFP
 =LOC1 =NOM
 ほら、そこにゴミがあるよ。
49. *unu hoNdana=Nka nara-ru-ru hoN=ja musika-a-N.*
 ★ ここ 本棚=LOC1 並ぶ-PROG-ADN 本-=TOP 難しい-ADJ-IND1
 この本棚に並んでいる本は難しい。
50. *tunai=Nka icc-u-riba wattaa=N kiisikir-aN-riba nar-aN.*
 ★ 隣=LOC1 入る.NPST-CSL=SFP 私達 気をつける-NEG-なる-NEG
 =ADD COND
 隣に泥棒が入ったなら、私達も気をつけないといけない。
51. *puni=nu suba=Nka uc-u-ibi-N=ro.*

船=GEN そば 置く-NPST-POL-IND1=SFP
=LOC1

船の隅においていますよ。

52. *ruu=nu ziteNsja=nu mee=Nka nusi-ti.*
自分 自転車=GEN 前=LOC1 乗せる-SEQ2
=GEN

自分の自転車の前に乗せて。

53. *kinuu aNmaa=ja pujumuno taNsu=Nka iri-ta-N.*
昨日 お母さん 冬 タンス 入れる-PST-IND1
★ =TOP 物.ACC =LOC1

昨日、お母さんは冬物を タンスに入れた (=しまった)。

54. *iN uri=ru jam-ine mata pisa=Nka nas-i=muN=cu.*
うん これ 痛む-COND また 膝=LOC1 なする-
=FOC NPST=SFP=QUOT

うん、これぞ (=薬を)、痛んだら、膝になすりつける (塗る) って。

また、*Nka* 格は派生的な機能を持つ。その一つが具格である。例文 55～56 のように「炊く」「煮る」に必要な「鍋」に *Nka* 格が用いられる。他にも *uri pukuru=Nka mu-ci+i-ike* (この 袋=LOC1 持つ-SEQ2+行く .IMP、この袋に持って行け)、*ju=Nka sizi-i-N* (湯=LOC1 煎じる-NPST-IND1、湯で煎じる) のような例が見られる。すなわち「鍋」「袋」「湯」に共通のこととして、ものが「存在」できる空間、滞留域があるということである。一般的には具格は *si* 格 (具格) で表されるが、空間や容量を持つ道具の場合は *Nka* 格が承接しやすい。なお、*si* 格 (具格) で代替されることもある。

その他、動作や行為の対象 (57) や結果 (58) を標示する機能である与格の機能も見られるが、同機能を持つ *ni* 格に比べてその頻度は高くない。他方言からの影響なども考える必要がある。

55. *nabi=Nka tak-u-N.*
鍋=LOC1 炊く-NPST-
IND1

鍋で炊く。

56. *Nmunijanaabi=Nka ni-si Nmu=ϕ ka-tu-ta-N=ro.*
芋煮る鍋=LOC1 煮る-SEQ2 芋=ACC 食べる-PROG-PST-IND1=SFP

芋煮る鍋で煮て、芋を食べていたよ。

57. paapuzi=Nka hookoku+si=jo.
 ご先祖様 報告+する.SEQ2=SFP
 =LOC1
ご先祖様に 報告しろよ。

58. miici=Nka wakir-i.
 三つ= 分ける-IMP
 LOC1
三つに 分ける。

3.2.7 Nzi 格 (グロス : LOC2)

Nzi 格は、動作や行為が遂行されたり、出来事が実現されたりする場所を表す。文中では、事態成立の外的背景を表す状況語として機能する (59~60)。また、期間の終点を標示する機能としても働く (61~62)。そのため、=mari=Nzi のように mari と Nzi とで複合形式 (62) を取ることができる。

59. uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.
 ここ サンエー 会う-PST-IND1=SFP
 =LOC2
 ここ (の) サンエー (スーパーの名称) で 会ったの？

60. kurasimi=Nzi hoN=φ jum-u-ine mii=φ
 くらがり 本=ACC 読む-NPST- 目=NOM
 ★ =LOC2 COND
 wasa-ku na-i-N=ro.
 悪い-INF なる-NPST-IND1=SFP
暗いところで 本を読んだら、目が悪くなるよ。

61. nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu=φ na-ti.
 二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ2
 (手術してから) 二月の十二日で 二ヶ月なつて。

62. sicigwatsu=mari=Nzi siharai =φ uwa-ta-kutu
 七月=TER=LOC2 支払い=NOM 終わる-PST-CSL
 ziko raku+na-tu-ru=baajo.
 とても 楽+なる-PROG-AND=SFP
七月までで 支払い終わったから、とても楽になっているわけよ。

3.2.8 uti 格 (グロス : LOC3)

uti 格も、Nzi 格と同様に動作や行為が遂行されたり、出来事が実現されたりする場所を

mata *u-i-ru-ru-Nka* *i-NzjaN=ro.*
 また 売る・NPST-PROG-ADN- 言う・PROG=SFP
 APPR
 私もまた（自分でも米を）食べながら、ここで 二百円でまた売っているなど言っているよ。

3.2.10 *kara* 格（グロス：ABL）

津堅方言の *kara* 格は、最も多様な機能を持つ格である。具体的には次の六つの機能がある。①起点を標示する（時間的起点、空間的起点、68～71）、②移動場所を標示する（72～74）、③移動手段を標示する（75～76）、④材料・原料を標示する（77～78）、⑤情報源を標示する（79～80）、⑥授受動作主（81）を標示する、以上六つの機能に分けられる。①は奪格、②所格、③～⑤は具格、⑥は与格に対応するものとして見ることもできる。「起点」標示が基盤となり、所格、具格へとその機能を拡大させたものとする。つまり、「起点」には「移動」の概念が前提として内包されており、動作や作用の起点における人や物が「存在」している最初の「位置」である。すなわち、「起点」に内包される「移動」という概念と人や物の「存在」という概念とが重層的に捉えられ、「移動動作の行われる場所」を標示する機能を派生させることにつながったと解釈される。さらに、移動動作に関わる移動手段標示へとその機能を拡大させたと考えられる。また、「起点」という概念が場所や時間のみならず、物に適応されて、原料や材料、情報源や授受動作主を標示する機能を派生させたといえる。これらをまとめれば、以下のように図示できる。

①「位置」起点 =

「移動」の概念

 → 移動動作の行われる場所 → 移動手段
 人や物の「存在」の概念

②場所や時間における「起点」の概念 → 物における「起点」の概念

68. *saNgwacu=kara* *ik-u-N.*

三月=ABL 行く-NPST-IND1

三月から 行く？

69. *nama=kara=ru* *suika=ϕ* *ki-i-ru.*

★ 今=ABL=FOC スイカ 切る-NPST-ADN
 =ACC

これから スイカを切る。

70. *tookjoo=kara* *ki-su-N.*

東京=ABL 来る-PROG-IND1

東京から 来ている。

71. *waN=ja* *kinuu* *uma=kara* *tu-ra-N.*

- ★ 私=TOP 昨日 ここ=ABL 飛ぶ・PST-IND1
 私は昨日、ここから飛んだ。
72. *sura-a-ru tui=nu tiN=kara tur-aku-N=ro je.*
 美しい-ADJ・ 鳥=NOM 天=LOC 飛ぶ-PROG- DSC
 ADN IND1=SFP
 きれいな鳥が 空を飛んでいるよ、ほら。
73. *ʔakkee ami+naka=kara ac-ci+ki-si.*
 DSC 雨+中=LOC 歩く-SEQ2+来る-SEQ2
 アッキー、雨の中を歩いて来て。
74. *arje je uNdoobaa=kara paaee+saku-wa.*
 あれ DSC 運動場=LOC 走り+する・PROG-IND3
 アレ、イエ、運動場を走っているよ。
75. *zjuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.*
 十時 船=ABL 来る-PST-IND1=QUOT
 =GEN
 十時の 船で来たって。
76. *zippuN=gurai ziteNsja=kara ik-u-ru uma=Nka.*
 10分=くらい 自転車=ABL 行く-NPST-ADN ここ=LOC1
pama=nu aN=cui=gate.
 浜=NOM ある=QUOT=SFP
 10分くらい 自転車で行くそこに浜があるというがね。
77. *saataa=ja uuzi=kara suku-i-N=te.*
 砂糖 さとうきび 作る-NPST-IND1=SFP
 =TOP =ABL
 砂糖は さとうきびから作るさ。
78. *Nmu=ϕ ni-si uri niziru=kara peeziru=ϕ suku-i-ru=baate.*
 芋=ACC 煮る-SEQ1 これ 煮汁=ABL 酢=ACC 作る-NPST-AND=SFP
 芋を煮て、この 煮汁から酢を作るわけ。
79. *akaruNki=nu sicizi=nu njuusu=kara waka-i-ta-N=ro.*

明け方=GEN 七時=GEN ニュース 分かる-NPST-PST-IND1=SFP
=ABL
明け方の七時の ニュースで 分かったよ。

80. *ure na deNwacoo=kara tumeet-aku-ru=baate.*
これ DSC 電話帳=ABL 探す-PROG-AND=SFP
彼は、ナ、電話帳で 探しているわけ。

81. *Nmee=kara ziN=ϕ jir-ah-at-ta-N. (>jir-ah-ar-ta-N)*
★ おじいさん=ABL お金=ACC 得る-CAUS-PASS-PST-IND1
おじいさんから お小遣いを得させられた (=もらった)。

3.2.11 mari 格 (グロス : TER)

mari 格は、先の *kara* 格とは逆に終点を示す。空間的な終点 (82)、時間的な終点 (83) のいずれにも用いられる。また、*kara* と対応させて *~kara~mari* という形式 (84~85) で用いられる。

82. *ukibarugwaa=mari Nzj-u-N=cuN=jo.*
浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND1= QUOT=
SFP
浮原島まで 行くてよ。

83. *jozi=mari asi-ri+ki-su-N=ro.*
四時= TER 遊ぶ-SEQ2+来る-
PROG=SFP
四時まで 遊んで来ているよ。

84. *jozi=kara gozi=mari ja-gutu=jo*
四時=ABL 五時=TER COP-CSL=SFP
juubaN=nu nuukui zjuNbi+sii-kara ik-u-N.
夕飯=TOP 何やかんや 準備+する.SEQ1-CSL 行く-NPST-
IND1
(集まりは) 四時から五時まで だから、夕飯は何やかんや準備してから行く。

85. *i-ta-i ki-sa-i heebara=kara kiNwaN=mari.*
行く-PST-REC 来る-PST-REC 南風原=ABL 金武湾=TER
行ったり来たり、南風原から金武湾まで。

3.2.12 *ni* 格 (グロス : TIM)

ni 格は先に示したように、間接補語として働く与格の機能を持つが、時間を表示する時間格の機能も持つ。与格機能の *ni* 格がハダカ格になるのは「*naiN* (なる)」の動詞であることが多く、その他の場合にはハダカ格になることは見られない。時間格の場合、単語によっては *ni* 格が承接できずハダカ格になることがある。

paru=si=ja asa=ϕ ik-u-N

畑=ALL=TOP 明日=TIM 行く-NPST-IND1 畑には明日行く。

paru=si=ja rukuzi=ni ik-u-N

畑=ALL=TOP 6時=TIM 行く-NPST-IND1 畑には6時に行く。

形態上は同じ *ni* 格であるが、表出の仕方に差があるものと捉え、ここでは時間格の機能を持つ *ni* 格は与格機能を持つ *ni* 格とは別に取り立てて時間格として扱うことにする。

86. *zu:haci=ni kwaan=ϕ na-su-N=ro.*

十八=TIM 子=ACC なす-PROG-IND1=SFP

十八に子どもなしているよ (=生んだよ)。

87. *suutaa=ja meenasi rukuzi=ni uk-i-N.*

お父さん

6時

毎日

起きる-NPST-IND1

★ =TOP

=TIM

お父さんは毎日 6時に 起きる。

3.2.13 *tu* 格 (グロス : COM)

tu 格は間接補語として働く共格の機能を持つ。動作や行為が成立するために必要とされる相手を標示したり (88)、動作や行為を一緒に行う相手を標示したり (89~90) する。また、述語が状態を表す語である場合には、関係性や等価性を標示する (91~92) 他、比較基準 (93~94) を標示する。

88. *kaNkoku=nu hitu=tu miitu=ϕ na-ti=jo.*

韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ2=SFP

韓国の 人と夫婦になってね、{note 「それから…」という感じであとに続く}

89. *rusi-Nsaa=tu maNna ik-u-N=cuN.*

友達-

一緒に

行く-NPST-IND1=QUOT

PL=COM

友達と 一緒に行くって。

90. *kinuu isiku=tu asi-ra-N.*

昨日

いとこ=COM

遊ぶ-PST-IND1

昨日、いとこと遊んだ。

91. *niisan=tu guu ra-ta-N=cuN.*
 兄さん= 組 (仲
 COM 間) COP-PST-IND1=QUOT
兄さんと (バレーの) 仲間だったって。
92. *uri sacuu=φ gohjakueN taaci=tu kee-ti+turah-aN-ga.*
 この お札
 =ACC 五百円 二つ=COM 変える-SEQ2-丁寧-NEG-Q
 この札 (を) 五百円 二枚と 換えてくれませんか？
93. *paapa-taa=tu kawa-tu-iga=te.*
 おばあさん-
 PL=COM 変わる-PROG- ADVRS=SFP
 (自分の言葉は昔の) おばあさんたちと 変わって (違って) いるけどね。
94. *waN=ja isiku=tu ni-su-N.*
 私=TOP いとこ
 =COM 似る-PROG-IND1
 私は いとこと 似ている。

3.2.14 *juka* 格 (グロス : CMP)

juka 格は間接補語として働く比格の機能を持つ。比較基準を表示する機能として働き、述語に状態を表す語を取って、その状態との比較関係を表す。

95. *waN=juka tiicee siizaa ra-ru.*
 私=CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN
私より 一つは上だよ。
96. *misatokoogjoo=juka tuuwa... tuu-wa-N=ja.*
 美里工業=CMP FIL 遠い-ADJ-IND1=SFP
 (今の職場は) 美里工業より、〈FIL.トゥーワ…〉遠いね。

3.3 格形式と機能についての全体的な考察

津堅方言の格形式とその機能について、機能別に再整理すると次ページの表5のとおりである。全体的に見ると、主格、対格、属格はハダカ格、*ga* 格、*nu* 格が担っており、機能差は文中における位置など構文的な要因が考えられる。与格は *ni* 格がほぼ専用として用いられているが、一部 *si* 格や *Nka* 格にも与格の機能が見られる。*mari* 格、*juka* 格もそれぞれ到達格、比格として専用的に用いられている。*tu* 格も共格が中心的な機能であるが、比格

があり、複数の機能を持つ。*ni* 格や *mari* 格、*juka* 格がある機能に特化して専用的に用いられる一方で、所格、奪格、向格など場所、起点、方向といった「空間」に関わる格はその機能を多様化させる方向にあると考えられる。特に具格との関連が見られる。

ところで、格機能の多様性は、複数の格形式に渡って同機能があるということである。その機能差がはっきりとしているものもあれば判然としていないものもある。使い分けの差がはっきりしているものは、たとえば、具格の機能を持つ、*Nka* 格、*kara* 格、*si* 格である。*Nka* 格に前接する名詞は空間や容量を有する物であり、*kara* 格に前接する名詞は移動手段である乗り物である。*si* 格は道具一般を表す名詞が前接し、*Nka* 格や *kara* 格との交替が可能である。*Nka* 格や *kara* 格の具格の機能は *Nka* 格や *kara* 格の基本的な機能から派生したものと考えられる。すなわち、*Nka* 格であれば、基本的な機能は人や物の「存在」する場所を示す機能であり、「存在」ということが関わって空間や容量を持つ物が道具として作用するとき具格としてそれを示すのに用いられているということである。同様に、*kara* 格の具格としての機能も「起点」標示という基本的な機能から派生したものと考えられる（詳しくは 3.10 を参照のこと）。一方、使い分けの差がはっきりしないものとして、動作や行為が行われる場所を標示する機能持つ *Nzi* 格と *uti* 格がある。他方言の影響や位相差なども含めた検討が必要である。また、同様の状態にあるものとして、*Nka* 格の与格の機能がある。津堅方言では、与格は *ni* 格が担っているが、沖縄本島中南部方言では *Nka* 格が与格として盛んに用いられている。沖縄本島中南部方言の影響から、津堅方言でも *Nka* 格の機能が多様化しているのかを検討する必要がある。

表 5 津堅方言の格形式（機能別一覧）

機能	格形式	例文	例文 No
主格	ハダカ格	<i>sooree=ϕ u-u-gutu=jo.</i> 兄弟=NOM いる-NPST-CSL=SFP 兄弟が いるからね。	3
	<i>ga</i> 格	<i>koori=ga tuk-ine mizi=ru na-i-ru.</i> 氷=NOM 溶ける-COND 水=FOC なる-NPST-ADN 水が とけると水ぞなる（=水になる）。	12
	<i>nu</i> 格	<i>wattaa cuu=nu nama sika-tu-N=ro.</i> 私たち 人=GEN 今 使う-PROG-IND1=SFP 私たちの 人が（家族の人）今使っているよ。	15
属格	ハダカ格	<i>uree waa=ϕ muN ja-ha.</i> これ.TOP 私=GEN もの COP=IND2 これは 私の ものであるよ。	5
	<i>ga</i> 格	<i>ujaNsaa=ga kasi=ru simirar-u-ta-ru.</i> 親たち=NOM 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN 親たちの 手伝いぞ（手伝いを）させられた。	14
	<i>nu</i> 格	<i>kii=nu pata=Nka pana sa-su-N.</i> 木=GEN 枝=LOC1 花 咲く-PROG-IND1 木の 枝に花が咲いている。	19
対格	ハダカ格	<i>nuru=ϕ kaak-ine mizi=ϕ num-u-N.</i> 喉=NOM かわく-COND 水=ACC 飲む-NPST-IND1 喉が渴いたら 水を 飲む。	8

与格	ni 格	<i>taa=ni kik-iba waka-i-ga=ja.</i> 誰=DAT 聞く-COND 分かる-NPST-Q=SFP だれに聞けば、分かるかな。	24
		<i>heega ure=ϕ simabananaa=ni nis-u-N=ro.</i> だけどこれ=TOP 島バナナ=DAT 似る-NPST-IND1=SFP だけど、これは島バナナに似ているよ。	25
		<i>waN=ni ir-a.</i> 私=DAT 得る-IMP 私にやれ (=ちょうだい)。	28
		<i>nusuru=ga zjuNsa=ni kasimir-at-ta-N.</i> 泥棒=NOM 警察=DAT 捕む-PASS-PST-IND1 泥棒が警察に捕まえられた。	30
		<i>asa X=ni mut-a-u-waa.</i> 明日 人名=DAT 持つ-CAUS-IND1 明日 X に持たせるよ。	32
与格	si 格	<i>eN=si kirikae-ta-kutu ihwi ra-ta-N=ro.</i> 円=ALL 切り替える-PST-CSL 少し COP-PST-IND1=SFP (ドルから) 円に切り替えたから、少しだったよ。	42
	Nka 格	<i>miici=Nka wakir-i.</i> 三つ=LOC1 分ける-IMP 三つに分ける。	58
向格	si 格	<i>inagu=ϕ cu=nu jaa=si hee-ku ik-aN=ro.</i> 女=TOP 人=GEN 家=ALL 早く-INF 行く-NEG=SFP (正月には) 女は人の家へ早く行かないよ。	38
所格	Nka 格	<i>ama=Nka takubui misje=nu a-i-je.</i> あそこ=LOC1 二軒 店=NOM ある-SEQ1-IND4 あそこに二軒店があるよ。	47
	Nzi 格	<i>uma saNee=Nzi isa-ta-N=ba.</i> ここ サンエー=LOC2 会う-PST=SFP ここ (の) サンエー (スーパーの名称) で会ったの?	59
	uti 格	<i>sima=uti umari-ti sima=Nka=ru uN=ro.</i> 島=LOC3 生まれる-SEQ2 島=LOC1=FOC いる=SFP 島で生まれて、島にいるよ。	64
	kara 格	<i>ʔakkee ami+naka=kara ac-ci+ki-si.</i> DSC 雨+中=LOC 歩く-SEQ2+来る-SEQ2 アッキー、雨の中を歩いて来て。	73
具格	si 格	<i>sabaki=si ka:zi sabak-i=be.</i> 櫛=INST 髪 梳け-IMP=SFP 櫛で髪を梳けよ。	65
	Nka 格	<i>nabi=Nka tak-u-N.</i> 鍋=LOC1 炊く-NPST-IND1 鍋で炊く。	55
	kara 格	<i>zuuzi=nu puni=kara si-sa-N=cuN.</i> 十時=GEN 船=ABL 来る-PST-IND1=QUOT 十時の船で来たって。	75
		<i>saataa=ja uuzi=kara suku-i-N=te.</i> 砂糖=TOP さとうきび=ABL 作る-NPST-IND1=SFP 砂糖はさとうきびから作るさ。	77

		<i>ure na deNwacoo=kara tumeet-aku-ru=baate.</i> これ DSC 電話帳=ALL 探す-PROG-ADN=SFP 彼は、ナ、電話帳で探しているわけ。	80
奪格	<i>kara</i> 格	<i>tookjoo=kara ki-su-N.</i> 東京=ABL 来る-PROG-IND1 東京から来ている。	70
到達格	<i>mari</i> 格	<i>ukibaru-gwaa=mari Nzj-u-N=cuN=jo.</i> 浮原島-DIM=TER 行く-NPST-IND1= QUOT=SFP 浮原島まで行くってよ。	82
	<i>Nzi</i> 格	<i>nigatsu=nu zjuuninici=Nzi Nikwagetsu=φ na-ti.</i> 二月=GEN 十二日=LOC2 二ヶ月=DAT なる-SEQ2 (手術してから) 二月の十二日で二ヶ月なって。	61
	<i>si</i> 格	<i>hanako=kara ziroo=si kumu jaa=Nzi suda-ti.</i> 花子=ABL 次郎=ALL この家=LOC2 育つ-SEQ2 ハナコからジロウまで、この家で育って。	44
時間格	<i>ni</i> 格	<i>suutaa=ja meenasi rukuzi=ni uk-i-N.</i> お父さん=TOP 毎日 6時=TIM 起きる-NPST-IND1 お父さんは毎日6時に起きる。	87
共格	<i>tu</i> 格	<i>kaNkoku=nu hitu=tu miitu=φ na-ti=jo.</i> 韓国=GEN 人=COM 夫婦=DAT なる-SEQ2=SFP 韓国の人と夫婦になってね。	88
	<i>tu</i> 格	<i>waN=ja isiku=tu ni-su-N.</i> 私=TOP いとこ=COM 似る-PROG-IND1 私はいとこと似ている。	94
比格	<i>juka</i> 格	<i>waN=juka tiicee siizaa ra-ru.</i> 私=CMP 一つ.TOP 年上 COP-ADN 私より一つは上だよ。	95

4. 津堅方言のとりたて

「とりたて」の定義について、日本語記述文法研究会（2009）では以下のように述べられている。

とりたてとは、文中のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えることである。

たとえば、次の例では、「奥さん」が「も」でとりたてられ、「弁護士だ」ということ

について、同類の「田中さん」と同様にあてはまらうものとして、加えられている。

- ・田中さんは弁護士だが、じつは、奥さんも弁護士だ。

[日本語記述文法研究会（2009）：3]

格ととりたてとの違いを端的にまとめれば、格は、述語成分である動詞や形容詞と関係を標示するの文法的な機能として働くのに対して、とりたては、要素を際立たせ、ある意味を付加するという違いがある。付加される意味には、主題提示や強調、累加、限定などがある。津堅方言のとりたてとして、ここでは主なとりたての *ja*、*N*、*ru* の3つを取り上げ、例文とともにその意味用法を記述する。

4.1 とりたて *ja* (グロス : TOP)

とりたての *ja* は、形態としては、*ja* の形態として現れる他、前部の音と融合する形態も

見られる (98)。また、格の後に配することもできる (99~100)。意味としては主題提示 (101~106) や対比などがある (107~108)。主題提示の場合、既出の情報についてとりたてることがある (98)。107、108 は対比相手がとりたてられたものである。「*inagu* (女)」「*kigwa* (男)」、「*waN* (私)」「*rusi* (友達)」が、それぞれ対比的に明示されている。また、108 のように数詞について、「少なくとも」「最低限」という意味が付加されて、「少なくともその量に達している」ことを意味する。

97. *cu=ja* *Nna* *Sin-u-N*.

★ 人=TOP 皆 死ぬ-NPST-IND

人は 皆死ぬ。

98. *uree* *seekjoo=kara* *koo-ta-ru* *muN=ro*.
これ.TOP 生協=ABL 買う-PST-ADN もの=SFP

これは、生協から買った物よ。

99. *kai=ni=ja* *Nna-gwa=ci* *i-N=baajo*.
貝=DAT=TOP 貝-
DIM=QUOT 言う-IND=SFP

貝には「シナグワ」と言うわけよ。

100. *warabi=ga=ja* *musi+hii-j-aN=ro*
子ども 持つ+する.SEQ2-POT-NEG=SFP
★ =NOM=TOP

子どもでは 持てないよ。

101. *nobunaga=ja* *hoNnoozi=uti=ru* *si-za-N=ro*.
★ 信長=TOP 本能寺=LOC3=FOC 死ぬ-PST-IND=SFP

信長は 本能寺で死んだよ。

102. *aNmaa=ja* *usugaa=si* *mmu=φ* *ara-i-ga+nzj-u-N=ro*.
お母さん ウスガー 芋=ACC 洗う-SEQ1-PURP+行く-NPST-
=NOM =ALL IND=SFP

お母さんは ウスガー (井戸の名前) に芋洗いに出ているよ (行っているよ)。

103. *are=ja* *karada=nu* *joo-ha-je*.
あれ=TOP 体=NOM 弱い-ADJ-IND4

あの人は、体が弱いよ。

入れる-SEQ2 私=φ 煮る-NPST-PST-CSL

uttaa mata kam-ar-u-N=baajo

彼ら=φ また 食べる-PASS-NPST-IND=SFP

自分も子どもたちも (豚の血の炒め物は) 食べないから、この生姜入れて私が煮たから、彼らは、また食べられるわけよ。

110. aree honuN jum-u-i manga=N jum-u-N

★ 彼.TOP 本.ADD 読む-NPST-REC 漫画=ADD 読む-NPST-IND

彼は 本も 読むし 漫画も 読む。

111. wanu=N tu-tu-wa uri jakuruto.

私=ADD 取る-PROG-IND この ヤクルト

私も 取っているよ、このヤクルト。

112. kinuu=N umi=si ik-u-ta-N.

★ 昨日=ADD 海=ALL 行く-NPST-PST-IND

昨日も 海へ行きよった。

113. suu=nu juru=N tunai=nu warabi=ga na-su-N.

★ 今日 =GEN 夜=ADD =GEN となり =GEN 子ども =NOM 泣く-PROG-IND

今夜も となりの (家の) 子どもが泣いている。

114. nuu=N kir-ar-aN cuu=nu u-u-ta-N=ro.

何=ADD 遣る-PASS-NEG 人=NOM いる-NPST-PST-IND =SFP

何も あげられない (=もらえない) 人がいたよ。

4.3 とりたて ru (グロス : FOC)

日本語の古語の係助詞「ぞ」に対応するものが、琉球諸方言でよく用いられているが、津堅方言でも *ru* の形態で用いられている。古語では、文末は係り結びとして連体形で現れるのが一般的だとされるが、津堅方言の場合は必ずしも連体形であるとは限らない。連体形、(115~116) (いわゆる) 終止形 (117~120) のいずれの形態も見られる。

意味は、いわゆる強調の意味を表す。対格の場合、もともとの対格がハダカ格なので、そのまま *ru* が配される (118) が、多くは格助詞のあとに配され、格による機能標示がさらに強められるという関係にある。たとえば、116 では、島のことを全部知っている「*ari* (彼=自分の親)」が *ga* 格で主格標示されているが、その主格をさらに強調する。文中に

- ★ 前.TIM.TOP 施設=LOC1=FOC いらっしゃる-NPST-PST-IND=SFP
 前には 施設にいらっしゃったよ。

¹ なお、ここで用いる例文は自然会話によって得られたものを中心にしているが、一部、質問調査（格形式を目的としたものではない）で得られた例文も提示している。質問調査によって得られた例文については、通し番号の下に「★」を付した。また、人名は X または仮名で表示してある。

² 話者に確認すると、gakkoo=si=nu misi（学校=ALL=GEN 道、学校への道）のように言えなくもないという。ただし、自然会話のテキストデータではあまり見られない。

³ 例文 31 は受身表現の質問調査による調査で、共通語の翻訳として提示された可能性もある。

⁴ si が動詞の「し」「して」に由来する指摘として以下が挙げられる。

ʃji は、國語のサ行變格の「せ」(se) の連用形「し」(ji) に、接續助詞「て」(te) の接合した「して」(jite) の轉訛したものであるらしい。[金城 1944 : 134]

Qsi, si の出自は、動詞 suN (する) の接續形に由来する。…中略…動詞接續形 Qsi, si が助詞に転成したのである。[野原 1998 : 60]

参考引用文献

Michinori Shimoji, Thomas Pellard (ed) (2010) *An introduction to Ryukyuan Languages*, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies

小川晋史（編）（2015）『琉球のことばの書き方 琉球諸語統一的表記法』くろしお出版
 生塩睦子（2001）「沖縄伊江島方言の格助詞」『日本語の消滅に瀕した方言に関する研究「環太平洋の言語」成果報告書 A4-001』、pp.222-236

亀井孝・河野六郎・千野栄一編著（1997）『日本列島の言語』三省堂

かりまたしげひさ（2015）「硫黄島方言の簡易文法記述—名詞の格—」『琉球諸語 文法記述』（2015 年度科学研究費基盤 A「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」報告書）、pp.183-199

かりまたしげひさ（2008）「沖縄県名護市幸喜方言の名詞の格＝とりたて—ga 格、nu 格、ハダカ格、ja のとりたて形—」『日本東洋文化論集』（14）、pp.1-80

金城朝永（1944）『那覇方言概説』、三省堂

島袋幸子（2015）「今帰仁謝名方言の格」『琉球諸語 文法記述』（2015 年度科学研究費基盤 A「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」報告書）、pp.200-217

當山奈那（2015）「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』（4）、pp.47-59

仲間恵子（2015）「恩納村名嘉真方言の名詞の格」『琉球諸語 文法記述』（2015 年度科学研究費基盤 A「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」報告書）、pp.218-230

西岡敏（2004）「沖縄語首里方言の助詞「ンカイ」「ナカイ」「ニ」「ガ」「カイ」—共通語の助詞「に」「へ」と対照させつつ」、『沖縄国際大学日本語日本文学研究』第 9 巻 1 号、pp.1-11

野原三義（1998）『新編琉球方言助詞の研究』、沖縄学研究所

日本語記述文法研究会『現代日本語文法 5』くろしお出版

比嘉繁三郎（1990）『津堅島の記録』、沖縄自分史センター

- 又吉里美 (2007) 「沖縄津堅島方言の手段を表示する格助詞の機能について」日本語学会 (編) 『日本語の研究』第3巻1号、pp.49-64
- 又吉里美 (2006) 「沖縄津堅島方言における「に」格助詞相当助詞の記述的研究—動作・作用成立に関与する対象・結果・目的表示機能を中心に—」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領』第54号、pp.153-162
- 又吉里美 (2006) 「沖縄津堅島方言の場所格を表示する格助詞の機能についての新しい知見」『国文学攷』(190)、pp. 1-15
- 又吉里美 (2005) 「沖縄津堅島方言助詞の体系的記述」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部 文化教育開発関連領』第53号、pp.137-146
- 松本泰丈 (1998) 「格のカテゴリーの内部構造 —奄美方言の〈空間格〉をめぐって—」、『国文学 解釈と鑑賞』第63巻 第1号、至文堂、pp.82-93
- 琉球方言研究クラブ (1989) 『琉球方言 17号—津堅方言の音韻と語彙』琉球大学方言研究クラブ

グロス一覧

ABL	ablative	奪格	INFR	inferential	推量
ACC	accusative	対格	INST	instrumental	具格
ADD	additive	添加	INT	intentional	意志
ADJ	adjectivizer	形容詞化	LOC1	locative	場所格 Nka 形
ADN	adnominal	連体/名詞化	LOC2	locative	場所格 Nzi 形
ADVRS	adversative	逆接	LOC3	locative	場所格 uti 形
ALL	allative	向格	NEG	negative	否定
CAUS	causative	使役	NOM	nominative	主格
CMP	comparative	比格	NPST	non past	非過去
COM	comitative	共格	PASS	passive	受身
COND	conditional	条件	PL	plural	複数
COP	copula	コピュラ	POT	potential	可能
CSL	causal	理由	PROG	progressive	進行
DAT	dative	与格	PST	past	過去
DIM	diminutive	指小辞	PURP	purposive	目的
DSC	discourse marker	談話標識	Q	question particle/ marker	疑問
FOC	focus	焦点	QUOT	quotative	引用
FIL	filler	フィラー	REC	recitation	列挙
GEN	genitive	属格	SEQ1	sequential converb	中止形 1
IMP	imperative	命令	SEQ2	sequential converb	中止形 2 = テ形
IND1	indicative	いわゆる終止形 N 形	SFP	sentence-final particle	終助詞
IND2	indicative	いわゆる終止形 ha 形	TER	terminative	到達格
IND3	indicative	いわゆる終止形 wa 形	TIM	time	時間格
IND4	indicative	いわゆる終止形 je 形	TOP	topic	主題

INF infinitive 限定用法の形容詞